

地域のできごと

R2. 8

「ロボット掃除機のような自動草刈機」の実演会を開催しました！

ICT やロボット技術を取り入れ、農作業の効率化に取り組むスマート農業として、須高農業振興会議、須坂市福島地区のもも生産者らでつくる「福島大島地区再生を目指す会」は6月8日、福島地区のリンゴ園で、人手をかけることなく24時間働き続けるロボット草刈り機の実演会をしました。

ロボット草刈り機は、室内掃除ロボットと似ておりランダムに動き回って左右どちらにも回転する刃で様々な雑草を刈り取りました。また充電電池の容量が減ると、自動的に充電場所に戻って充電し、1日午前6時から午後9時までの15時間で20アールのリンゴ畑を6日間で刈り取りました。

実演会には福島地区のもも、りんご、ぶどう生産者、関係者ら約30人が参加。草丈が40cmの高い草やギンギン等の難防除な草もありましたが止まることもなく刈ることができました。参加者からは「草刈りは4月～10月に計6～7回、乗用草刈り機でしているのでロボットに任せられると、他の作業ができる。」「生産に直接関わらない草刈をロボットに任せれば、品質向上や収入の増加につながる」との意見も出され同会にとって導入に向けて検討するよいきっかけとなりました。

支援センターでは、引き続き農作業における省力・軽労化、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待されることからスマート農業の支援を行っていきたいと思います。



自動草刈機



6日後のリンゴ園の状況